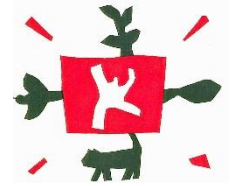




共同通信



2018年1月26日 257号(466号)

日本基督教団 西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22

TEL 0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email koudou@gamma.ocn.ne.jp

<http://koudou.jp/> 振替 01170-3-4901

To tell the story 155

「沖縄から西宮へ」

新年のご挨拶を申し上げます。

新しい年に皆様に主の御祝福が豊かにありますようお祈りいたします。

さて、私は、この度、2018年1月より西宮共同教会の副牧師また共同幼稚園の副園長としてこちらにまいりました。どうぞよろしく願いいたします。

わたしは西宮に来るまで13年8ヶ月首里教会の牧師をしていました。

沖縄を紹介されましたとき、それまで沖縄のことは、何も知りませんでしたから、自分は不適任ではないかと思いましたが、お断りしました。けれども、何も知らないことがいい、白紙だからいい、

行ってから学ばばよいと言われ、心配してくださった方々もおられたにもかかわらず、紹介者に勧められるままに沖縄に行った次第です。そのようにして首里教会の牧師になりましたが、西宮にくることになった経緯を考えても、何もわからないまま呼ばれるままに来たということでは似ているように思います。ですから、沖縄に行くことになったときの心境と今回の心境は重なります。まるで神の聲に促されて行き先を知らないで旅立った旧約聖書のアブラハムのような心境に似ているかも知れないと思ったりしています。沖縄のことについては、沖縄に住むよ

時代にふり回されるのではない

あの時 心を躍らせて生きた

後悔に 身をふるわせたこともある

笑い 泣き 歯ぎしりをした

今日 こんな決意をしたという

自分の人生を語ってほしい、

自分の人生を語ってほしい、

自分の人生を語ってほしい、

自分の人生を語ってほしい

自分の人生を語ってほしい

うになってから、沖縄を生きてきた人たちから学び教えていただくことになりました。ある教会員は、瀬長亀次郎の本を持ってきて貸してくださり、他の教会員は、『沖縄キリスト教史料』を貸してくださいました。瀬長亀次郎や阿波根昌鴻のことなど知り、沖縄にはすごい人たちがいたものだと驚きながら、沖縄の歴史、沖縄のキリスト教の歴史を少しずつ学ばせていただきました。ときには、首里教会の牧師さんには自分の書いた本を読んでほしいと著書を下さる方もおられました。沖縄についての古い歴史がわかる本でした。

首里教会は、いろいろな意味で特別な存在でした。私のような者には不適任に思えることがよくありました。沖縄は、沖縄を生きてこられた人たちにしかわからないことが多く、ヤマトからのわたしがそこにいるということだけで、傷ついているウチナンチュも少なからずおられたことは胸が痛むことです。このようなことは、沖縄に住んでみないことにはわかりません。ただできる限り誠実に牧師の務めを果たすということだけで過ごした13年8ヶ月であったように思います。

移動型の私には、13年8ヶ月も同じ土地にいたということは、生まれてはじめての経験です。(でも、牧師館には2年半ぐらいいて、そこに住所を置いたままほぼ2年ごと国場、壺屋、鳥堀、南上原、当蔵と転々としました)。私の人生の中で一番長かったのは、福島県の須賀川教会

での11年ですし、それ以外は、ほとんど長くて4年というほどに移動するタイプでしたから、沖縄はわたしの人生での貴重な時になりました。去るときには、妻とわたしを惜しんでくださった方々には感謝していますし親しくしていただいたことを喜び嬉しく思っています。

沖縄に行く前の15年間、山形、福島と東北教区にいました。東日本大震災、未曾有の大津波に襲われる映像や福島原子力発電所の爆発、放射能汚染の大災害大被害の映像は、親しく知っている人たちの顔が浮かび言葉にならない衝撃が体の中を走っていくようでした。いまだに帰ることのできない地域の一つである浪江には、わたしが大学生のころ両親が2年間住んでいましたからよく行った場所です。それだけに、浪江で親しくしていただいたお一人が東京で行われた父の葬儀のとき参列して下さっていたのは、嬉しく感謝なことでした。

振り返って、少しは知っている、少しはわかっている、少しは親しく関係があったということは、まったく知らない、わからない、関係がない、ということとは、やはり大きく違い、まったく違うという思いが絡んできます。

西宮に来ないかと声をかけてくださった菅澤邦明牧師とは、名前は知っていましたが、これまで言葉を交わしたこともありませんでした。先生は、沖縄教区の2017年5月末の教区総会終了日の翌日空港への帰り道、首里教会に寄られて、2

日間傍聴された沖縄教区総会の感想や総会でのわたしの発言に対する感想など話していかれたのが、知り合うきっかけでした。菅澤牧師は、以前から沖縄には行き来があり、子どもたちや青年たちを連れて「なきじんキャンプ場」でキャンプをおこなったりしてこられ、わたしよりも、沖縄との関係は長い先生ですから、総会の感想などわたしとは違った角度から見ていたのだと思います。それ以来何度もかかわりを持つようになりました。沖縄の現代史戦後史を研究されておられる森宜雄さんとも親しくかかわりを持つようになりました。そのような縁から、西宮公会館の話が出てきたのだと思います。

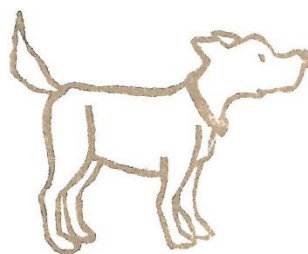
沖縄には何もわからずに行き、そこに住んでいろいろ教えていただき学ばせてもらいましたし、親しくしていただいた方々には、沖縄を去るとき、惜しんでいただいたように、西宮公会館や幼稚園についても、何もわからずに来て、西宮公会館や幼稚園に関係する方々から教えていただいたり、学ばせていただきながら、やっていくことになるのだろうと思っています。まるで、宇宙人がまったく知らないところに来たという感じですので、どうぞよろしくお願いいたします。

ところで、わたしは、菅澤牧師とはまったく違うタイプの者だと思いますので、そのことをご理解くださいますようよろしくお願いいたします。

わたしの一番の関心事は、宗教的なこと

です。その他のことは常に、宗教的なことがらとの関連で判断しています。ものごとの重点の置き方は人によって異なっていると思いますから、比較することがらではないと、常に自分のことがらとして理解しています。よろしくお願いいたします。

(竹花 和成)



～どろんこと太陽～2017

西宮公同幼稚園の子どもたち

がんばるぞー!!! どんどこどん、
どんどこどんっ!!! 太鼓の音で始
まった3学期。寒さにも負けず、元気い
っぱい登園してきてくれた幼稚園の園庭に
は、箱がかぶせられた大きなものが…。
ぼっぼさんは、「なにか、おやつがはい
ているのかなあ」なんて、声もあつたの
だそう♪ 年長さんかというと、その箱
を見て、もう何か分かっているようで～、
ドキドキ、ワクワクの様子…。いよいよ
箱が外され、その姿がみんなの前に！
まず最初は、園長先生と順子先生の太鼓
の音が幼稚園いっばいに響きます♪ そ
の響きは、地面からも伝わってくるほど
ー！ その太鼓の鼓動を感じながら、腕
を高く振り上げて、足もしっかり踏ん張
って、太鼓をたたく真似をするみんなが
かわいくてー！ ぼっぼさんも、さんぼ、
らったさんも年長さんもー！ そして、
半袖、半ズボンで気合十分の年長さん！
いよいよ年長さんが太鼓をたたく時がき
きました。ぼっぼさんの頃からずーっと見
てきた太鼓をたたく、憧れの思いで見
てきた年長さんの姿。さんぼ、らったさん
の時は、来年が自分たちが…と、ワクワ
クしていたみんなの顔を今でも覚えてい
ます。「来年はみんなの番だよ！」と受け
継がれてきた大切な時間。年長さんはす
ごいな、かっこいいな、と見てきたその
姿。がんばるぞー！の掛け声が聞こえ、
どんどこどん、どんどこどんどこ、どん

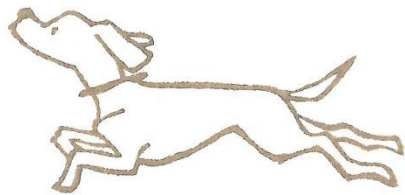
どどこんっ！と叩き始める年長さん。見
つめる先は、太鼓だけ！がんばれー！の
応援に後押しされて一層力強く叩くみん
な！ その姿をじっと見つめるぼっぼさ
ん、さんぼ、らったさんの姿に、“憧れて
いた存在”だったのが、もうすっかり、
“憧れられる存在”へと変わっているの
だなと、ぼくたち、わたしたちが公同幼
稚園の年長だ！のみんなの表情がととも
逞しい、かっこいい。それは、そんな場
を共に過ごすことができたことにとても
嬉しくなるひと時となりました。

年長さんの太鼓の音が響き渡った始園
の1日。こまや、けん玉、あやとりなど
冬の遊びも広がる園庭では、待ってまし
たと言わんばかりに朝の用意を終えると、
my こまを持ってこま板を囲む子どもた
ちの姿が。そして、やってみたいなと集
まるぼっぼさんや、そんなぼっぼさんに
教えようかと、優しく声をかける年長
さんの姿があったり、my あやとりを持
って階段でお友だち同士で、あやとりを
する姿があったり、♪～もしもしかめよ
♪～ジンジンジンギスカーン と、流れ
る音楽デッキの前ではぼっぼさんが集ま
り、その音楽に合わせて踊っていたり～
♪ けん玉を持って見様見真似で挑戦す
る（時にはけん玉がマイクにも～♪）み
んなに、夢中になれるものがあり、何
でもやってみよう、挑戦してみようの姿に
たくさん出会える、冬の始まり。今日は
どんな挑戦に出会えるのだろうか、ワク
ワクする毎日です。

寒いだけではない冬。お日様がこんなに暖かいのだな、と感じるようになったのは公同幼稚園に来てからです。雲でお日様が隠れてしまった時には、♪～おひさまあたれ～と、思わず歌ってしまうほど！お日様の暖かさを感じながら、寒さに負けず力強く生きる冬芽との出会いも始まります。また、♪～年に一度のもちつきは のもちつき大会に、♪～たこたこあがれ のたこあげ大会と楽しみがいっぱいです♪

そして、忘れてはいけない1月17日の阪神淡路大震災。高松公園で行われた「大地震子ども追悼コンサート」では、子どもたち、大人たちの歌声が空いっぱいに響き渡りました。色んなことに挑戦して、笑い合っ、時にはけんかもして、そして仲直りしてと、子どもたちと過ごす毎日に幸せを感じる日々。そんな中で出会う様々な自然、その怖さを教えてくれた大震災。今、何ができるのか、当たりまえには来ない毎日。だからこそ、1日1日を大切に、過ごしていかななくてはならないと強く思います。大好きな子どもたちと過ごす日々に喜びを感じながら、子どもたちの笑顔がこれからも広がっていきますように…。

(馬場 由希子)



教会の火曜日 10時から12時 於：西宮公同教会集会室

第1火曜日	わいわいお茶会
第2火曜日	ゆっくりと聖書を読んでもみませんか
第3火曜日	読書会
第4火曜日	社会のこと、世界のこと

あんなこと こんなこと

2017年12月24日(日)

教会学校(クリスマス会)

「ドレミパイプ」でクリスマス♪「やりたい人～？」の声に、「はい！」「はい！」の大きな声の、好奇心旺盛の公同っ子たちは、先生たちの前にきちんと並び、見よう見まねでも、しっかりと合奏しました。



長さの違いで音階が出せるように作られた、プラスチックの管状の打楽器。



2018年1月7日(日)

教会学校(七草がゆ、かるた遊び)

2018年初めの教会学校。せり、なずな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな、すずしろを、7日の朝に食べるという風習があるということで、まず七草のお勉強をしました。そして、園舎2階では、かるた遊び。2チームに分かれ、白熱した戦いをしました。



2018年1月7日(日)12時～

津門川川そうじ

新年初めての川掃除。冷たい風の吹く中でしたが、たくさんの人たちが集まってくださり、地域を流れる川をきれいにできました。



2018年1月17日(水)10時～11時

大地震子ども追悼コンサート

高松公園(兵庫県立芸術文化センター前)

テノール歌手の藤川晃史さん、ピアニスト城村奈都子さんをお迎えて、今を生きている大切な子どもたち、大人たちが集まった素敵なコンサートでした。



～あるがままに～

「順子先生の出会い日記」

2010年くらいから始まったのが大学での仕事。講義とか講演などという機会は1980年代の終わりくらいから声をかけていただけてきた。大学という場所に憧れがなかったわけではない。それは1回の講演とか保育士の受験講座などでの内容や回数の決まった講座ではなく、季節、世の中の状況など自由に織り交せて半期とか1年続けてやってみたいなとよく思ったからである。受験講座の参加者から「もっと時間あったら子どものこといっぱい聞かせてもらえるでしょうね」とよく言ってもらったものです。しかし講座の参加者はとにかく熱心、プリントがあり、早口で喋り、板書したとしても誰も文句は言わない。喋りながら、でも書いていることは別の文言とか文章であってもその両方から読み取ろうとする。そんな技を褒めてくれる、もっと聞きたいと迫ってもくる。お金を払い、求めている受講だから姿勢が違う。このままでもよいのだと思いつつ、でも「通年講義」にも憧れたのも事実。

で、そんな機会が巡ってきた！結構「絶好調」ではありました。居眠り、食べる、トイレに行く、ため口まあいろいろあるものの、負けてはいられない、工夫あるのみ。園の休みの月曜日に出講、その間いのおかげで火曜日からは子どもたちの時間のありえないほどの素晴らしさに

感動し、感謝した翌週を迎える。そんなこんなで7～8年。

学生に疲れることはあったものの、2017年の後期、これはまた違った意味で「もうやめようかな」になってしまった出来事も。

学生相手なら、怒っててどうする、じゃあ次はどうしようと思えるけれどこれが仲間ならそうはいかない。数年前に4年間同年齢の方々々とチームを組んだ。お一人は何とその学校に行って再会した同級生(男)、もうお一方は大阪の公立幼稚園で働かれた方(女)。

お二方がすべてをわたしに託していただき、提案を受け、それを支えてくださった。講義の際はその二人のメモを貰いたいと思うくらい、まだ仕事をしておられる一人はこの時のメモが今も役に立つと会うたびに言ってくださっている。

そんなチームでのある時、「スーホの白い馬」を読んだ。うまどしだったから紹介したのかよく覚えていないが、関連してのいろいろな話を終えたあとに男性の先生が教壇に立たれて、「先生の話ちょっと聞いてくれる？」とうれしそうに遠慮がちに話し始められた。

お子さんが小学校の低学年のころにこの話を聞いて「おとうさん、ばとうきんってどんなの？見てみたいなあ」と言った、それならと馬頭琴を見に民俗学博物館だかに即連れていかれたという内容だった。絵本が何段も段を登り、またこの日の話も輝かせてもらったような、そんな

な思いがした体験が忘れられない。どんな話をしてもどちらかが出てこられて味を添えられる。すごいチームだったと今更ながらに思う。

今回もチームを組んだ（組まされた、それも相当の年下）。最初のうちは丁寧なことばに隠されて気づかずだったがだんだんとカチンと来始めた。「もっと学生を当てたり、本を読ませたりしたほうがいいじゃないですか」、これには前述のお二人が「先生は実践がない人と違ってそんなことして時間稼ぎしなくていいのよ」と。

「いろいろあちこちに話が広がるけれどまあ最後は本来の課題のところにおさまっているからいいんじゃないですか」、これには我がチームは怒った、「若い人にそんなこと言わせておいていいのか」と。結構辛抱強いわたし、これは仕事だからとがんばります、何しろ主導権を握ってることだし。

次に「学生は先生の話を理解できていないと思います」と来た。これには友人が怒る。「その人がわかってないのよ、でなければどこがとか言えるはず」、おおそうか、わたしも「たとえば」と返せばよかった。で、とうとうわたし自身が怒る時が。クリスマスの真ただ中に授業があったのでサンタとツリーの折り紙にクリスマスのお菓子を添えて準備し、色紙も配って実技の時間。ここで見た！手に取ってその見本を見ようともしない。もちろん折るなんて、「わたしもやってみようかな」なんてことは。後ろ手で見て回

るだけ。これが研究者か。

ところで保育の勉強となると領域が出てくる。健康とか言語、環境、人間関係など。そしてその講義のためにはその語句が表紙に大きく踊るテキストがある。学生は次の授業のそのテキストを持って移動していく。見ていられない、そんな教科書ではなく見てきたもの、今日の息吹を伝えたいそんな思いでやってきたこれまで。これは教科書を使う、使わないの戦いか。

で次にまた怒った！でもうまく言えなかったことそれはこの映像だけは外したことがないという「ダウン症の青年のヒップホップダンスに挑む姿」の1本。ある日これを託して休んだ日のこと。ダウン症についてのレジュメを作り、自由に思いを述べられるようにとレポートの用意をした。2クラスあるのだが、先のクラスのを読んでいてそれぞれの思いにうれしくなる。親の思いに気づいての文章もある。親が押し出すか困ってしまうかその右と左でその子は違ってくるんだなとか書いている。見るところ見てる、そう思えて顔がほころんだところで急に何かが変わってきた。えっと思った。次の時間のレポートだった。そこで気づいたこと、①に「困難」、そして②に「変化」となっていてそれに合わせて書かせているのだ。となると困難なんてことばから読み取るものはほとんど一緒、変化も一緒。何の面白さもない、独自性もない。先のレポートにこれまで出会ったことがあった時のことと合わせて映像と

の思いを整理している文もある。でも「困難と変化」というふうの上から目線で一方的に切られてしまったら何も出てこない。ことばもなかった。学生との「戦い」よりそれ以前のことが大学にはある。

まあ面白いことも多く、すべては自分次第なのですが。

「こうぞう版行動報告書」

毎年この時期になると、出かけることが極端に少なくなります。出かけるインフルエンザやノロウイルスなどのリスクがあるのでなるべくなら出かけないようにしています。以前、インフルエンザの予防接種は毎年というぐらい受けていましたが、そのあと10日ぐらい身体がだるい、微熱があるなど副作用が続くので、接種はやめて、そのかわりに出かけないようにしています。

あと1ヶ月ほど我慢して、春になるのを楽しみにしています。(ただし、通院は別です。)

(下平 浩三)



日本基督教団西宮公同教会集会案内

早天祈祷会	毎月1日午前6時30分から	於：西宮公同教会集会室
教会学校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮公同教会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮公同教会集会室
聖書研究祈祷会	毎週第1・3水曜日午後7時から	於：西宮公同教会集会室
読書会	毎週第2・4水曜日午後7時から	於：西宮公同教会集会室

(早天祈祷会、聖書研究祈祷会、読書会は、2016年4月よりしばらくお休みしています。)

～♪ぼくのみる空ときみのみる空はつながっているから～

「アメリカでも奮闘しています」

新年おめでとうございます。2017 年末には、多忙が続いたのと、教会でインフルエンザが大流行し、夫も感染して倒れてしまいました。24 日クリスマスイブ礼拝後に体調が悪化し、その後二、三日風邪薬を飲んでいましたが熱が下がらず、クリスマス時期になって病院がお休みだったのですが、救急外来を受診することになってしまいました。

アメリカで救急外来を受診することが初めてだったことと、夫の体調があまりにも悪かったことで、かなり緊張した時間を送ることとなりました。まず、子どもたちを預かってくれる人を探し、ちょうど近所に住んでいる娘の仲良しの台湾人のご家族に頼んでみたところ、子どもたちを二つ返事で預かってくださるお返事をいただくことができました。また、救急外来は予約なしで病院に飛び込むこともあって、どうしていいのかよくわからないまま、夫を病院に連れて行きました。熱がとても高かったことと、呼吸が早くなってしまっていたことで手先に痺れが出始め、本人も訳のわからないうわごとのようなことを話し出したりしたので、こちらもかなり緊張していましたが、受付ではいつもの受診のように笑いながら名前を聞いてきたり、特に急いだ対応の様子もなかったので、少し驚きました。夫が立ってられないとのことで車椅

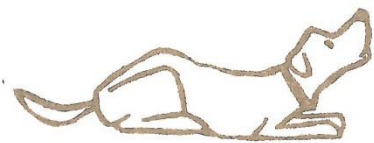
子に座らせてもらったのですが、それでも辛かったようで病院の床に何度も横になろうとするので、かなりドキマギしました。あとから振り返ると、本人は頭が全く回っていなかったと。よっぽど辛かったのかと思いますが、それでも病院の床に寝転ばせるわけにはいかないので、なんとか片言の英語で「本人が横になれないかと話している」などと伝えると、部屋に案内してくれました。こちらは自分の要求を自分から伝えないと、相手が察して動いてくれるということが、病院であってもありえないので、自己主張が肝心です。そこで点滴を受け、処置を受けることができました。本人がとても寒がっていたのでブランケットをもらえないかと何度か話しましたが、熱を下げるためにブランケットは渡せないと言われ、シーツを一枚渡されただけでした。日本とは少し対応が違うように感じました。ですが、それなりに親身になって点滴を持ってきてくださったり、熱や脈拍をデータとして測り、経過を見てくださったりしました。結局朝の 9 時半頃に受診し、夕方まで処置がかかりました。

保険が効いても、外来受診料金だけで 250 ドル（1 ドル 110 円の計算で 27,500 円）の支払い、また点滴やその他の投薬の処置はあとで請求が来るとのことです。やはり救急外来はとても高額になります。もちろん苦しんでる夫を助きたい気持ちはあったのですが、心の中では、「この処

置は一体いくらになるんだろう…」という恐怖感が正直ありました。野宿生活者の人がとても多いサンノゼですが、こんなに辛そうな風邪をひいた場合、一体誰が病院までその人を運んであげるのだろうかとか、貧しい生活をしいられている人たちはこのような処置をどのように受けることができるのだろうかと考えさせられました。アメリカの医療や保険の仕組みは日本とは全く異なり、金額も桁が違います。

その後夫も元気になり、私や娘息子には風邪もうつることなく、健康が与えられていることが当たり前ではないことに感謝しました。インフルエンザの予防接種をまだ受けていなかった私と子どもたちは、今更ですが受けに行きました。インフルエンザの予防接種は無料で、薬局、病院の入り口に予防接種コーナーが設けられ、予約なしでその場で受けられます。問診票も何もありません。5分で終了し、帰宅しました。1月2日から新学期が始まり、なんとも慌ただしい年末年始でしたが、元気に学校に通える幸せをそれぞれに感じた新学期の始まりとなりました。

(山本 知恵)



名護め七曲(64)

沖縄の文化 6 中国(明)との関係

高専にも PTA があるとは。上の子がもうすぐ高校卒業で、これでやっと 16 年にも及ぶ保護者会・PTA 活動から解放される一つと思ったら、今度は下の子が通っている高専の後援会(PTA みたいなもの?)の役員をしなくてはならなくなった。卒業まで最短であと 4 年。専攻科に進学したらプラス 2 年。留年やらしたらもう…。

【舜天王等→英祖王統】 1187 年から 1259 年まで、〔舜天〕・〔舜馬順熙〕・〔義本〕と三代にわたって続いた舜天王統でしたが、その終盤、沖縄は飢饉・疫病に見舞われ、事態の收拾に力尽きた〔本義〕はここであえなく降板。代わって登板したのが浦添の〔英祖〕でありました。英祖王統は 1260 年から 1349 年まで五代続きます。

【仏教伝来】 沖縄に仏教が伝わって来たのは 13 世紀半ば頃だといわれています。〔英祖〕の時代ですね。〔禅鑑〕というお坊さんが那覇にやって来て布教を始めたそうです。補陀落渡海の末に沖縄に流れ着いたという説もありますが、帆も艫も無いあんな小船に乗って、たまたまはいえ、よくもまあ遥々那覇港にまで辿り着いたものです。こういう捨て身系の修行は私にはちょっと無理かな。

【英祖王統の終焉と三山分立】 英祖王統の問題はどうやら第四代王〔玉城〕にあ

ったようです。色々指摘されてはおりま
すけれども要するに飲み過ぎということ
だと思います。後を引き継いだ第五代王
〔西威〕も大変だったことでしょう。〔玉
城〕王が飲み過ぎたせいで、琉球は三国
(南山・中山・北山)に分裂してしまいま
す。

【察度王統】 英祖王統が非常に残念な形
で終わりを迎え、次に登場いたしました
のが〔察度〕。察度王統は「察度」と「武寧」
のたった二代しか続きませんが、この間
沖縄は貢物作戦で中国(明)との国交を確
立してゆきます。中国風文化が本格的に
沖縄にもたらされるのはこの頃(14世紀)
からということになります。

【三山の明への入貢】 明の使者「楊載」が
中山の「察度」のもとを訪れたのは 1372
年。「オレたちのボス(朱元璋)に従うなら
お前たちウチナーを子分にしておいても
いいぜ」と、概ねそんなところだったので
はないかと思います。〔察度〕はこの要求
に応えます。(応えるんかい！って思いま
すよね) それで中山の明への朝貢が始
まります。中山に続いて南山と北山も明
に使節と貢物を送り、それぞれ国家・国
王の承認を“正式に”明から受けます。三
山ともこの“公式な”承認が欲しかったわ
けです。なぜ明(中国)が偉そうに承認や
らする立場にあったかという、それは
単純に、当時は明が東アジア最大の国だ
ったから。そういう国際“秩序”だったわ
けですね当時は。

【閩人三十六姓】 明にどんな贈り物をす
れば喜んでいただけるか、南山も中山も

北山も隔年の進貢の度にいろいろ悩んだ
でありましょう。そんな時いつも頼りに
していたのが久米島に居留していた中国
商人たち。様々な品物の商取引や海運事
業、はたまた外交文書の作成など、明と
の朝貢・冊封、貿易には欠かせない存在
だったと言われています。彼らは「閩人三
十六姓」と呼ばれていました。「福建省の
人たち」という意味だそうです。久米島、
まだ行ったことないな。

500年近くも続く中国との長い朝貢・
冊封の関係により、沖縄も食文化や工芸、
芸能、学問など様々な影響を中国から強
く受けたことは間違いのないでしょう。だ
けど影響は強かったけど、その間沖縄が
中国であったことは一度もありません。
大きさの差こそはあれ、お互いに一つの
国家であることを認め、また礼儀として
相互不可侵の不文律みたいなものがあ
ったのではないのでしょうか。そんなこと
お構いないしに無礼にもズカズカと沖縄
に攻め入って来たのは他でもないヤマト
です。中国でも朝鮮でもありません。今
となってはすっかり飼い馴らされた犬の
ような日本ですが、ほんの少し前まで「何
をしでかすか分からない危険な国家」であ
ったことを、ヤマト人は気にも留めてい
ないかもしれないけど、世界は決して忘
れていないと思いますよ。

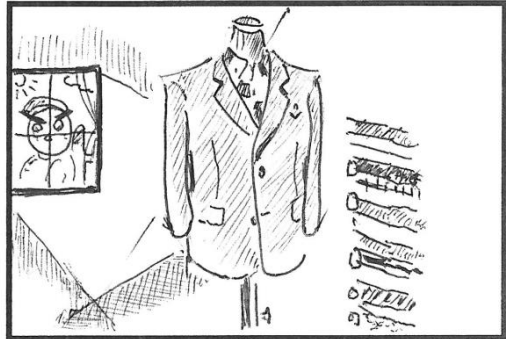
(羽柴 禎)



! / !



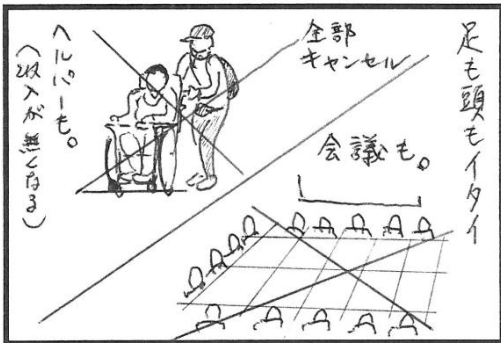
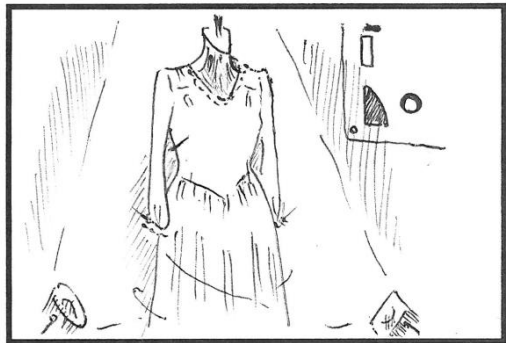
体験 → 臭益 → X



2018 1 JAN

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
		ヘルパー	ヘルパー		骨折	
8	9 H.P	10 H.P	11 TEL	12 会合	13	14
15	16 17 会合	17	18 TEL	19	20	21
22	23	24 H.P	25	26	27	28
29	30	31				

スケジュールが 混んでます



日時
2月2日(金)、16日(金)
8時45分ぐらいから



丹波から採れたて
野菜が届きます

に
こ
し
き
た



場所
アートギャラリー



～つとがわ・あれこれ～

「彦一だこ」と出会ったのは、50年ほど前です。歯医者さんの待合で眺めていた製薬会社のパンフレットに、それが紹介されていました。手作りの凧を、およそ3000メートルの高さまで上げている千葉県佐原にお住いの歯科医師の里村彦一さんの紹介でした。その凧「彦一だこ」の作り方の簡単な図面を見つけ、実際に作ったのがやはり40年ほど前で、800メートルほどの糸（釣り糸）を用意し、武庫川河川敷で上げたとき、用意した分の糸を引いて、スルスル上がってしまいました。驚きだったのは、子どもの頃から、あれこれ扱っていた凧のほとんどが、上がりにくいか、墜落してしまうというとは、大いに違っていたことです。

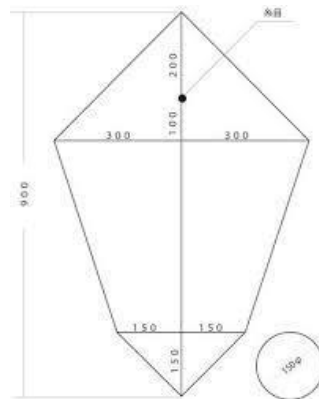
「上がる凧」で、革命を起こしたのは、ゲイラカイトです。凧の受け方、受け流し方が身軽で（3本の骨をつなぐ以外、魚のヒレのように動くはためくので）しかも、1本の糸を本体の中央、上下に取り付けたもう1枚のヒレの先端に取り付けるだけという簡単な構造であがってしまうのです。

「彦一だこ」は、構造的にはゲイラカイトとほぼ同じで、図面通りに作ると大きくなりますが、（縦100cm、幅60cm）安定度は、抜群です。ただし、形が大きいため、微風でも上がってしまうゲイラカイトのようにはいきませんが、必要な風さえあれば、3000メートルは誇張ではありません。

今年も、「彦一だこ」を作りました。使う竹ひごも手作りの為、材料の竹を篠山市後川の小倉久輝さんの竹やぶで、切らせてもらいました。

寒風の中を走り、大空を見上げ、大空を自由に飛ばす凧のたこあげはいい遊びなのです。

(K)



「おらおらでひとりいぐも」...なんかいい響きだなあ。新聞の「ひと」欄になにか吸い寄せられて読んでいくと、「役割をいったん終えた女性の終わりの時の自由さと吹っ切れ感、おばあさんの哲学を書きたかった」という芥川賞作家は岩手県出身だそう。

この日から私の頭の中でひとつの旋律が回り始めました。今やすっかり遠くなってしまった高校生時代に取り組んだ合唱曲「永訣の朝」。

おらおらでひとりいぐも...細部は忘れていましたが、便利なユーチューブにより実に30年近くぶりに聴き返すことができました。数ある録音の中では男声ありの編成がいいなと思いました。賢治の声のように聞こえますから。

その一週間後の「ひと」欄には直木賞作家が。小説の題名は「銀河鉄道の父」。東北に思いを馳せて...

(Y)

12月17日～1月8日まで、関西に帰りました。私の実家の西宮では、共同幼稚園のブックスタートに招待していただいたり、淡路島に住んでいる祖母に会いに行ったり、昨年転んで骨折した祖母の様子を見に大阪のリハビリ施設へ行ったり。元気そうでほっとしました。そして、以前働いていたパン屋へ娘を連れて行ったり、妹とお出かけしたりしました。長いと思っていただけ色々用事もあり、あつという間の年末でした。

1月3日からは、主人の実家がある愛媛県松山市へ。関空から飛行機で松山空港まではあつという間で、今回の移動は全て飛行機にしました。道後の街を歩いて、伊佐爾波神社で初詣。娘は子どもみくじを引いて、小吉でした。そして、松山に行った時にいつも楽しみにしているのが、パン屋さん。“パンメゾン”の塩パンがおいしくて、今回も焼きたてのパンを食べに朝から行ってきました。

両方の実家でゆっくりと過ごさせてもらい、良い年末と一年の始まりのひとつときとなりました。久しぶりに会った孫の成長をととても喜んでもらえて、皆にいっぱい抱っこしてもらいましたが、人見知りが激しくなってきた娘は、よく泣きました…。でも共同でもいろんな先生たちに抱っこしてもらいましたが、全然泣かなかったなあ。そんな娘は、ほったたけプクプクの太ももムチムチで6ヶ月を迎えました。

(C)

テレビで、「血管の老化」がテーマの番組を見ました。あまり、健康番組は見ないのですが、たまたま晩御飯を作りながらのながら見でしたが、見てしまいました。血液の老化で引き起こす病気として、脳卒中や心筋梗塞などがあるそうです。60～80歳の14人の人たちが実験に協力されていて、半数以上が実年齢より、5～10歳も血管が老いていました。私も、普段の食生活から少しヒヤッとしました。でも、その14人の人たちは、普段から野菜中心であったり、塩分控えめと、気を使った食事を摂られていたそうなのですが…。こういう結果に。何故かという、ある栄養素が不足しているからだそうです。その栄養素を見るまでは、チ

ャンネルは変えまいと必死に見ていましたが…。「亜鉛」でした。チーズ、カニ、ナッツ、肉にも含まれています。肉の2倍もの亜鉛を含んだ食材が「牡蠣」だそうです。牡蠣を普段から食べている人は、みんな血管年齢が、5～9歳も若く、きれいな血管だったそうです。

その一つの栄養素が足りていたからと言って、すべてが健康になるとは思いませんが、普段あまり見ない健康番組にすっからはまっていたその時間が後で思い返したら面白くて…。でも、何でもバランスよく食べるのが一番ですね。今度、大好きな牡蠣も食べます。

(K)

正月の間にいただいた年賀状を自分史に沿って整理してみた。学校時代、これは中学校が最初、次に銀行時代、そして公立の保育所で一緒に働いた仲間との交流、共同幼稚園に来て出会った先生や保護者、子どもたちはこれは別枠。大学院などで学んだが、その後仕事の範囲が広がって勤務校での同僚など。その間に会った研究会でのメンバーたち。まあいろいろあるわあるわ、すごいのは次男を産んだ時の同室の人との1年に一度の1枚。人生ほんとに豊かに過ごしてきたものです。保母になって最初に受け持った年長のクラス、七転八倒だったけれど今でも手紙をくれる教諭がいる。その今年の1枚、「菅澤先生、仁川保育所でいっぱい遊んでくれてありがとう。ぼくも子どもたちと遊ぶ保育士ががんばっています」。これで1年は元気出るぞ。去年は「鶴瓶の家族に乾杯」のことを年賀状でというのがたくさん。「変わらないね」「若いね」「飾らないでそのまんまだったね」などなどの中に「先生はどんな相手とも同じ地平で話をされるのですね」「もしへつらったような対応だったら、何やこの人の程度かと思ったと思う」と直後に言われたことがあったけれど、みんな地続きで生きていると、かつて先輩が言われたことがあった。だからそのまんま！

誰も怖くないとは言わないけれど。

(J)

カット (A・T)

政治・宗教思想研究会／関西神学塾

《今後の講義予定》

2月23日（金）新免貢先生「初期キリスト教の文献から」

2月24日（土）新免貢先生「初期キリスト教の文献から」